

「第2 目指す将来像と交通の役割」 について

目次

- 1 第2章の位置づけと構成
- 2 目指す将来像と暮らしの姿
- 3 目指す将来像を支える交通の役割

1 第2章の位置づけと構成

1 第2章の位置づけと構成

◇位置づけ

- 3章の課題、4章の戦略・施策に向けた、バックキャスト型アプローチの**起点**となる章。
- 上位関連計画から目指す将来像と暮らしの姿を整理し、それに対する交通の位置づけや役割をまとめる。

◇構成

2-1 目指す将来像と暮らしの姿

●市が目指す姿

総合計画、都市計画マスタープラン等の上位・関連計画が描く将来像を整理し、そのまちで実現される市民や来訪者の暮らしの姿を整理する



2-2 目指す将来像を支える交通の役割

●交通の位置づけ・役割

2-1の将来像と暮らしの姿を実現するための、交通の位置づけと役割を示す

2 目指す将来像と暮らしの姿

総合計画、都市計画マスタープラン等の上位・関連計画が描く将来像を整理し、そのまちで実現される市民や来訪者の暮らしの姿を整理する

(1) 目指す将来像

- 上位・関連計画で描かれている **目指す将来像** を整理する。



① 総合計画「一人ひとりが豊かさと幸せを実感できるまち」

「一人ひとりが豊かさと幸せを実感できるまち／松本の地域特性を最大限に活かした循環型社会」を目指すまちの姿に掲げ、「若者と女性の挑戦と定着を支える社会基盤の構築」など4つの「重視する視点」の下、施策を推進する。「住み続けたいまち」「移り住みたいまち」として、世代を越えて選ばれる魅力あふれるまちの実現を目指している。



② 都市計画マスタープラン「住む人と訪れる人にとって魅力と活力にあふれる都市」

将来都市像として「ゆとりと活気にあふれる、自然共生都市／住む人と訪れる人にとって魅力と活力にあふれる都市」掲げ、集約連携型都市構造(コンパクトシティ・プラス・ネットワーク)の実現を目指している。



③ えきまえエリアビジョン等「えきしろ空間のパブリックライフの充実」

松本駅周辺から松本城までの「えきしろ空間」において、「パブリックライフの充実」(賑わいと魅力にあふれる公共空間の形成)を目指す。これにより、市民の定住・移住や投資・人材を呼び込み、住む人にも訪れる人にも選ばれるまちを目指している。

共通する将来像「住む人にも訪れる人にも選ばれるまち」

総合計画が「世代を越えて選ばれる魅力あふれるまち」を、都市計画マスタープランが「住む人と訪れる人にとって魅力と活力にあふれる都市」を、えきまえエリアビジョン等が「パブリックライフの充実」を掲げるように、これらに共通する「住む人にも訪れる人にも選ばれるまち」という将来像を、本戦略は交通から支える。



(2) 目指す都市構造

- 関連計画の都市計画マスタープランで描かれている **目指す都市構造** を整理する。

① 暮らしを支える拠点 「多拠点の設定と誘導」

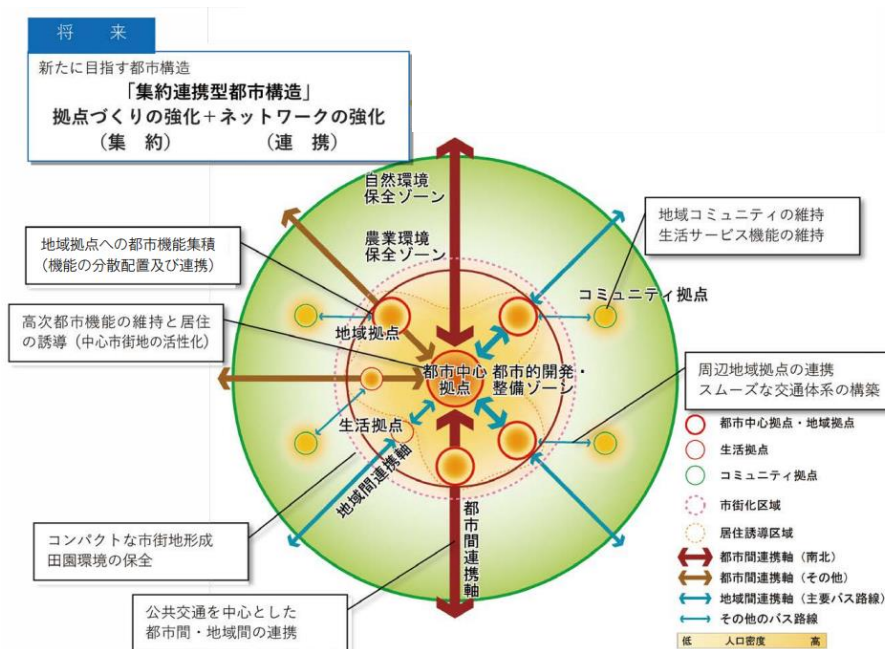
都市中心拠点(中心市街地)、地域拠点(主要な鉄道駅・バス停周辺)から、生活拠点、コミュニティ拠点まで、市内にいくつかの拠点(多拠点)を設定し、**都市機能や居住を緩やかに誘導**する。

② 拠点を結ぶ連携軸 「公共交通による連携強化」

周辺都市間との移動・連携を担う「都市間連携軸」と、市内の地域間や拠点間を結ぶ「地域間連携軸」を配置し、特に**公共交通による連携強化**に重点を置く。

③ 骨格的道路網 「環状放射型の道路網」

市街地に集中する交通を分散し、円滑な交通流動を確保するため、骨格的道路網は環状放射型を基本とし、まちなかでは通過車両を幹線道路網に迂回させ、**道路を人中心の空間として再構築**する。



出典: 松本市都市計画マスタープラン

目指す都市構造 「集約連携型都市構造(コンパクトシティ・プラス・ネットワーク)」

将来都市像「ゆとりと活気にあふれる、自然共生都市」の実現には、「住む人」と「訪れる人」にとって魅力と活力にあふれる都市に向けて、**拠点への都市機能・居住の誘導と、拠点間の連携を支える交通**が重要である。

(3) 目指す暮らしの姿

- 目指す将来像・都市構造で営まれる暮らしを、**7つの姿**でまとめる。

	こども・学生	・親の送迎に頼らなくても、通学や部活動、休日のお出かけまで、安全に<u>自分自身で移動</u>できる。 ・「学都」の学生が、<u>まちなか</u>で学び、楽しみ、活動できる。
	若者	・通勤や買物、レジャーなど様々な移動の場面で、<u>自動車以外の手段も安心して選ぶ</u>ことができる。 ・自動車の維持にかかる負担に縛られず、<u>自分らしい働き方や暮らし方を選ぶ</u>ことができる。
	子育て世代	・子どもの送迎や日々の移動に追われることなく、<u>自分の時間を持てる毎日</u>を送ることができる。 ・小さな子ども連れでも、<u>安全で移動しやすいまちなか</u>で、安心して外出や買物を楽しむことができる。
	現役世代	・通勤や買物に加え、趣味や休日の外出も、<u>自動車に縛られず自由に楽しむ</u>ことができる。 ・仕事帰りや休日に、まちなかへ気軽に出かけ、<u>人との交流やまちでの時間を楽しむ</u>ことができる。
	高齢者	・運転免許を返納しても、通院や買物、趣味の場などに、<u>自分自身で出かける</u>ことができる。 ・外出の機会が自然と増えるまちで、<u>健康で生きがいのある毎日</u>を送ることができる。
	来訪者	・観光やビジネス、近隣市町村からの通勤・通学や買物まで、松本駅を起点に誰もが<u>目的の場所へ迷わず快適にたどり着く</u>ことができる。 ・歩いて楽しいまちなかで、「<u>また訪れたい</u>」と思える時間を過ごすことができる。
	移住者 ・移住希望者	・松本での新しい暮らしを選んだ若者と女性が、通勤や買物など<u>日々の移動に困ることなく、住み続ける</u>ことができる。 ・移住希望者が「<u>自動車がないと暮らせない</u>」という不安なく、<u>移住先候補として松本を選ぶ</u>ことができる。

移動は「暮らしの質」を左右する

- ・これら7つの暮らしの姿に共通して、移動は「暮らしの質」を左右する。
- ・移動の不安や不便さは、今住んでいる人の暮らしの質を下げるだけでなく、訪れる人や移り住む人にとっての魅力も損ない、「住む人にも訪れる人にも選ばれるまち」となるうえでの妨げともなり得る。

3 目指す将来像を支える交通の役割

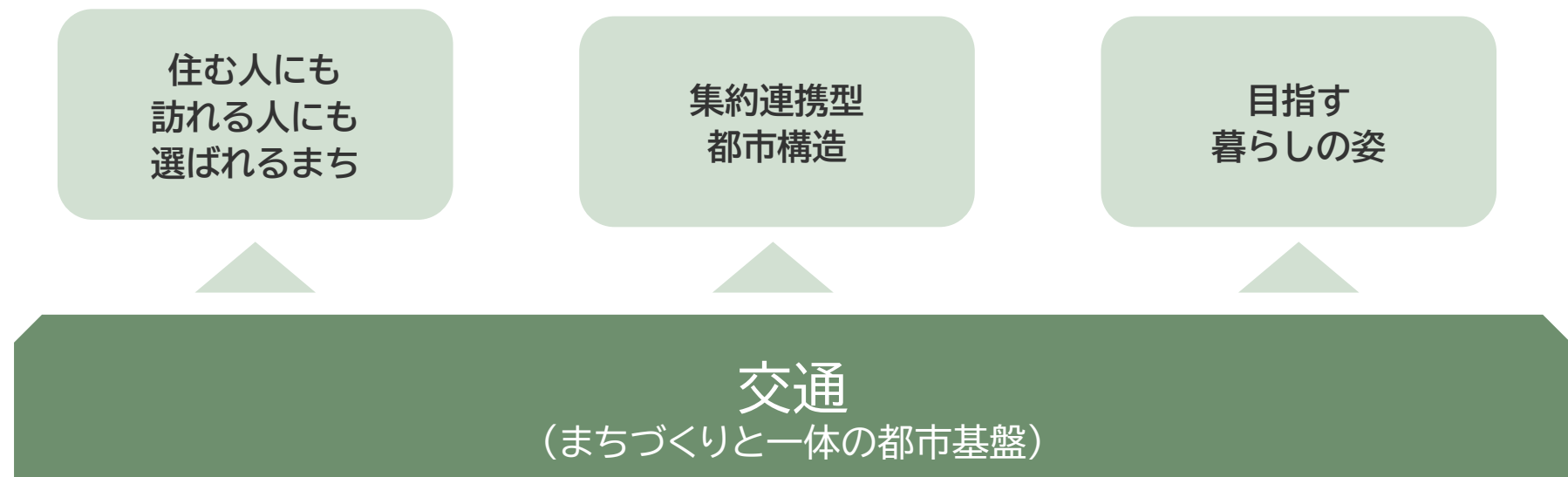
将来像と暮らしの姿を実現するための、交通の位置づけと役割を示す

(1)交通の位置づけ

交通の位置づけ

交通は、目指す将来像の実現を支える**都市基盤**

- 全国的に交通の担い手不足が深刻化する中、本戦略では、交通を単なる移動手段ではなく、まちづくりと一体となり、将来像の実現を支える「都市基盤」として位置づける。
- 「住む人にも訪れる人にも選ばれるまち」も「集約連携型都市構造」も「目指す暮らしの姿」も、交通が基盤として支える。



(2)交通の役割

役割1

暮らしを支える基盤

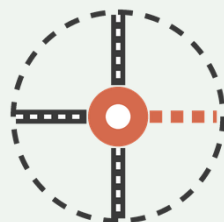


- 年齢や自動車の有無にかかわらず、誰一人取り残すことなく、学校・病院・商業施設など日常生活に必要な場所へ安心して移動できる環境を実現する。
- 自動車を自由に利用できない人にも移動機会が確保されていることは、誰もが安心して住み続けられるまちを支える。これは「選ばれるまち」に欠かせない要素である。

ポイント③：
移動機会の確保

役割2

都市構造を支える基盤



- 都市機能誘導区域、居住誘導区域では、多様な移動手段を選択できる環境をつくり、暮らしやすさによって緩やかな集約を促す。市外や広域からの来訪は交通結節拠点で受け止め、それぞれの目的地へ円滑かつ安全につなぐ。
- 拠点間を結ぶ交通軸を道路網と一体的に形成する。松本駅を起点に南北方面のJR、西方面の上高地線、東方面のバスなど既存の交通資源を活用し、市と交通事業者が連携して東西南北の交通軸を強化していく。
- この積み重ねが、過度な自動車依存からの転換とゼロカーボンにつながり、集約連携型都市構造の実現を支える。

ポイント④：
移動手段の選択

ポイント⑥：
交通結節拠点の再構築

ポイント⑦：
交通軸の強化

役割3

まちの魅力と活力を支える基盤



- えきしろ空間では、通過交通を幹線道路網へ迂回させ、道路を人中心の空間として再構築することで、ウォークブルで居心地の良い公共空間を創出し、歩いて楽しいまちなかをつくる。
- 広域からの来訪の玄関口となる交通結節拠点とあわせて、賑わいと交流を生み、住む人にも訪れる人にも選ばれるまちの実現につなげる。

ポイント⑤：
えきしろ空間の再活性

ポイント⑥：
交通結節拠点の再構築